

令和6年度 川口賞報告書

報告者：石田祐（京都大学大学院・理学研究科・生物科学専攻・動物学教室）

参加学会：EuroEvoDevo 2024（Meeting of the European Evolutionary Developmental Biology Society）

開催場所：University of Helsinki, Helsinki, Finland

日程：2024年6月24日～28日

発表数：口頭発表212件，ポスター発表290件

EuroEvoDevo は、2年に一度欧州で開催される、進化発生生物学（Evo-Devo）分野において最も大規模かつ活発な国際会議です。第9回となる本大会には世界各国から650名以上が参加し、極めて多様な生物種や研究テーマに関する刺激的な発表が多数行われました。これほど多くの Evo-Devo 研究者が一堂に会して最新の研究成果について議論を交わせる機会は大変貴重であり、大会期間中は常に知的な刺激に満ちた日々を過ごすことができました。

本大会に先立ち、開催前日から2日間にわたって5つの Satellite meeting（Amphioxus, Platynereis, Arthropod, Fish, Crustacean）が行われました。私が参加した Amphioxus satellite では、ナメクジウオを中心としてホヤ・サルパ（被囊動物）やギボシムシ（半索動物）などを対象とした Evo-Devo 研究に関する発表と活発な議論が行われました。

続く4日間の本大会も、終始活気に溢れた雰囲気の中で進行しました。今回、私は「Gene regulatory networks in development and evolution」というシンポジウムの contributed session において「Evidence from ascidians for the shared evolutionary origin of neural crest cells and neuromesodermal progenitors」という演題で口頭発表を行いました。詳細は割愛しますが、脊椎動物の神経堤細胞と神経中胚葉前駆細胞の両方の性質を併せもった細胞をホヤ胚に見出した研究成果を報告しました。発表後には、多くの方から「面白かった」と声をかけていただいたほか、懇親会で私を探して熱心に質問をしてくださる方もおり、自分の研究が高い関心をもって受け止められたことを実感し、大変励みになりました。

単一細胞トランスクリプトーム解析や空間トランスクリプトーム解析といった最新技術の活用が目覚ましい一方で、緻密な形態観察や機能解析といったいわば古典的な実験的アプローチに基づいた質の高い研究発表も数多く見受けられました。最新技術によって研究の可能性は大きく広がりますが、生物学的な問いの核心に迫るためにはやはり地道で丁寧な観察や実験に裏打ちされた実証的な研究が不可欠であることを痛感しました。

本大会での発表や研究者との交流を通じて得られた知見や経験、そして人的ネットワークは今後の研究者としてのキャリアにおいて極めて貴重であり、研究を大きく前進させるための重要な糧になるものと確信しております。末筆にはなりませんが、このような貴重な機会を支援してくださいました故川口四郎先生ならびに日本動物学会関係者各位に改めて深く感謝申し上げます。